



▲政治活動のビラを印刷した西部コミセン

コミセンでのビラ印刷は

答弁 = 法第23条違反の恐れ

「コミセンは中央公民館の分館であり、社会教育法第23条の規定により「特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公私の選挙に関し特定の候補者を支持する

答弁＝松田教育長

去る10月10日、議員7人が政治活動のビラを西部コミセンの事務室で一万二千七百二十二部印刷。しかもその時、請求ミスにより、両面印刷が片面印刷の料金しか支払っていなかったことが外部からの指摘で判明し、精算された。

「コミセンは「町立公民館」の設置及び管理に関する条例」第2条第2項で中央公民館の分館として位置づけられている社会教育施設であり、「社会教育法」第23条違反ではないのか。事実調査の結果、指定管理者への指導はどのようにしたのか。

幼稚園から義務教育修了年限を人生における基盤づくりの時期と位置づけ、平成17年度に西小・幼、18年度に蓮池小・幼において幼小一貫教育を試行し、学校・家庭・地域の役割分担と責

幼小一貫教育の成果を問う

こと」、また「市町村の設置する公民館は特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派もしくは教団を支援してはならない」と禁止されているので、「コミセン」での選挙活動、政治活動のビラと思われる資料の場合はその恐れがあると考える。

「コミセンは従来からサークル、自治会などの印刷は認めているが、不徹底なところもあり今後、法に基づいてしっかりと運営指導を行う。なお、議員も今後は住民の不信を招くような使用は注意していただきたい。

その他、住吉橋西側での工事において信号機設置、植樹について質問した。

町教育審議会の答申に基づき、育ちの連続性と人生におけるインフラづくりを目指して、試行実践と家庭教育啓発の2つの方法で教育に焦点を当て取り組んだ。成果は、充分機能しているとは云えないが、播磨西小・幼は2年目、蓮池小・幼は1年目でありその成果を見守り、続けていきたい。今、起っている教育のさまざまな問題を学校・家庭・地域社会が「他山の石」として危機感を持って取り組む必要がある。



自治クラブ

杉原 延享

「人にやさしい政治」を約束します!!

- ◆教育・子育てを積極的に応援します
 - ・中学校給食(選択方式)の実施を検討
 - ・「播磨北小学校の廃止」を再検討
 - ・保育の多様化を推進(病後児保育等)
- ◆弱者・高齢者を大切にして支援します
 - ・町内巡回バスを運行(ミニバス)
 - ・庁舎1階に町民相談窓口を設置
 - ・在宅介護、在宅医療の支援を充実
- ◆役場組織・事務を早急に改革します
 - ・町長公用車(500万円)の廃止、報酬見直し
 - ・女性職員の登用、職員の意識改革の徹底
 - ・要望、苦情をデータ管理し、予算に反映
- ◆時代にあった公共事業の展開を
 - ・住民からのまちづくりプランを支援
- ◆公正・公平な財政運営に努めます
 - ・情報公開を徹底、隠し事のない町政を

▲選挙公報に掲載された清水町長の公約

町長公約の実現を

答弁 = 行政計画などと整合・調整

町長の公約の取り組みと行政計画との整合性は、また、中学校給食の実施は、

答弁＝清水町長

予算の査定中で、行政計画などの整合は調整する。中学校給食は教育委員会の調査研究結果を待ちたい。問・「播磨北小学校の廃止」を再検討は。

答・廃止決定の教育委員会の決定を尊重した。

問・保育の多様化を推進は。

答・来年度、病後児保育を1園で実施。

問・町内巡回バスの運行は。

答・来年度に調査研究。

問・町民相談窓口設置は。

答・来年度に設置。

問・町長公用車(500万円)の廃止、報酬の見直しは。



塩沢 岩光

その後の状況は。

答弁＝清水町長

答弁書を提出した

9月29日公平委員会が審査請求書を受理。11月6日

降任人事について

答・公用車は売却済み。来年少々に報酬を諮問する。

問・女性職員の登用、職員意識改革の徹底は。

答・8月1人、10月3人をリーダー職に。地道に改革。

問・要望、苦情をデータで管理し、予算に反映は。

答・日頃から行っている。

問・「住民からのまちづくりプラン」を支援は。

答・まちづくりを支援。

問・「情報公開を徹底、隠し事のない町政を」は。

答・今後も推進。

問・総合病院の誘致は。

答・前向きに取組んでいく。

問・「変えます」播磨町「対話のできる行政」には。

答・行政懇話会協働を期待。

答弁＝松田教育長

活用は時期尚早

当町では、小学5年15%、6年21%、中学1年37%、2年48%、3年58%が使用。

問・学校持ち込み許可は。

答・基本的に禁止です。

問・今後の取り組みは。

答・ネット犯罪、人権指導をした。活用は時期尚早。

活用は時期尚早

ケータイの使用の実態は。

ケータイの取り組みを

答弁＝松田教育長

言いつつは難しい

目に見えてここが変わったと言ったことは難しい。

問・「幼小一貫教育推進委員会」の状況及び今後は。

答・「食育」教育に取組みパンフレット作成の予定。

問・幼稚園、保育園を「認定こども園」に出来ないか。

答・現在、考えていない。

幼児教育の確立を

に答弁書を提出した。